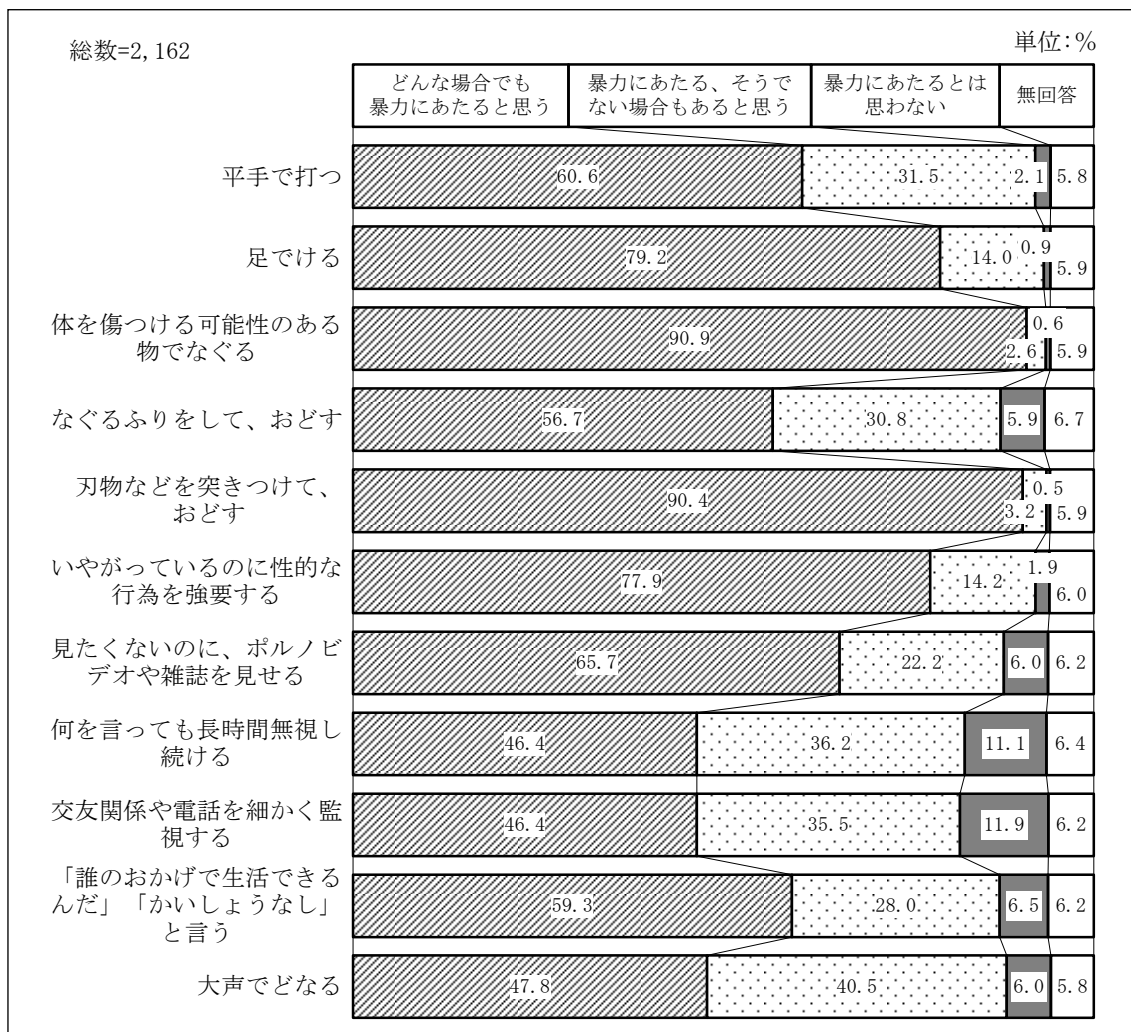


VI 配偶者などからの暴力について

※問 23～25-7の設問にある「配偶者など」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者のほかに、交際相手も含まれます。

問 23 暴力として認識される行為

あなたは、次のようなことが配偶者などの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。
(ア～サのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)

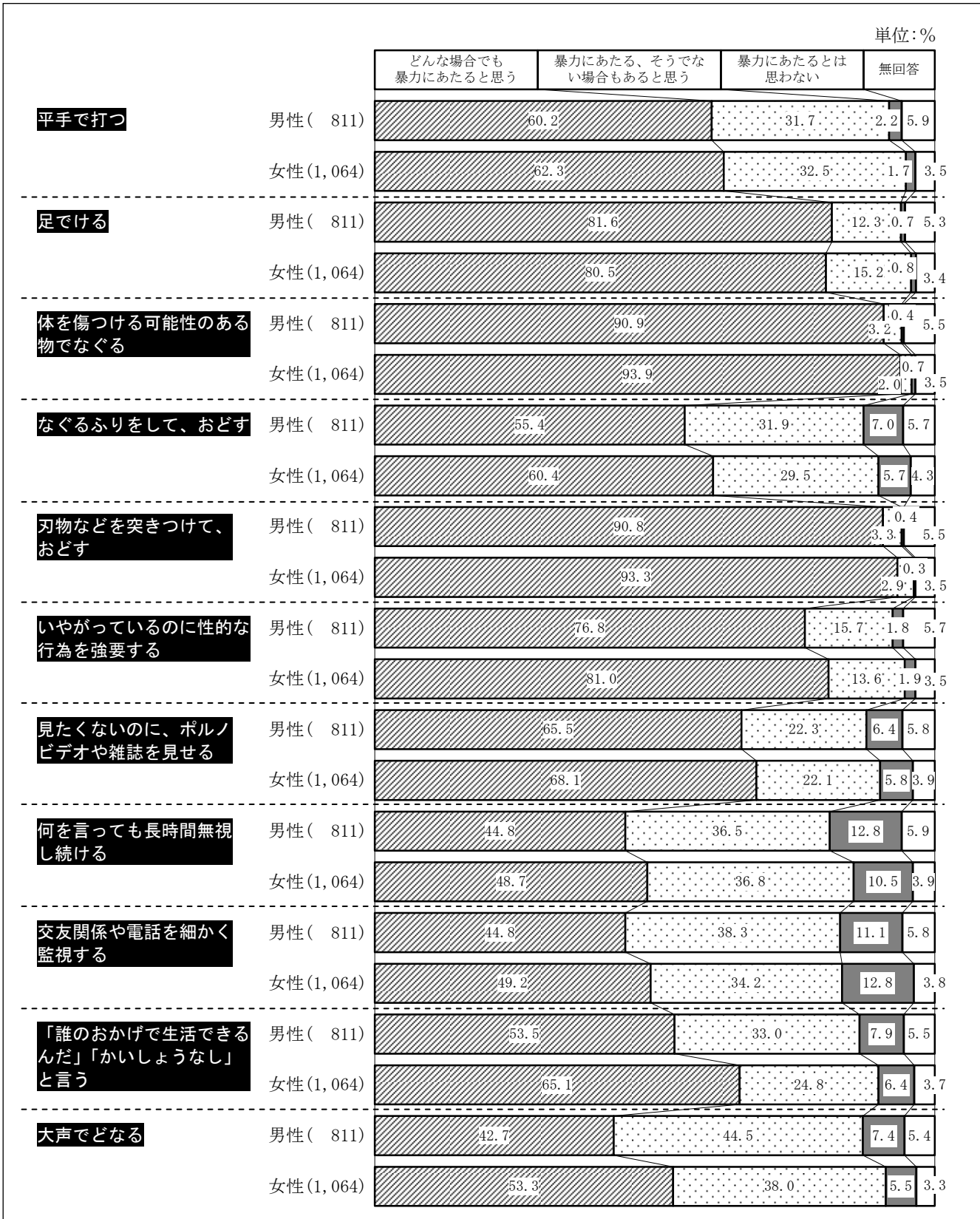


図表 120 暴力として認識される行為

○全体の傾向

配偶者などの間での身体に対する暴力については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が過半数であり、特に『体を傷つける可能性のある物でなぐる』(90.9%)、『刃物などを突きつけて、おどす』(90.4%)では9割を占めています。

その一方で、「暴力にあたるとは思わない」と考える項目をみると、『交友関係や電話を細かく監視する』(11.1%)、『何を言っても長時間無視し続ける』(11.9%)といった行為が1割台であり、他の項目に比べて高くなっています。

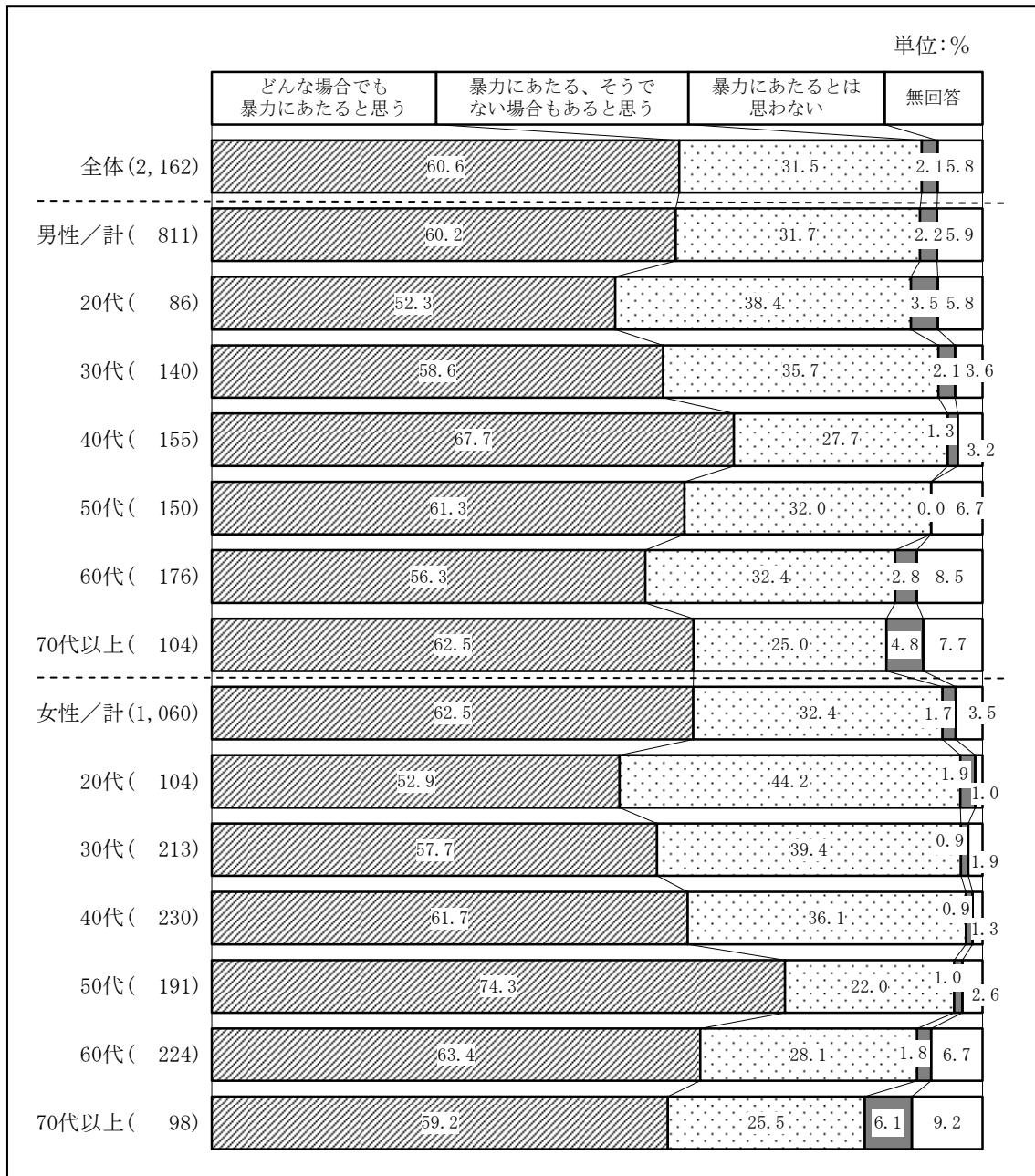


図表 121 暴力として認識される行為（男女別）

○男女別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える項目をみると、『「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしようなし」と言う』（男性：53.5%、女性：65.1%）、『大声でどなる』（男性：42.7%、女性：53.3%）は女性が男性を10ポイント以上上回っています。

平手で打つ



図表 122 暴力として認識される行為『平手で打つ』（男女・年代別）

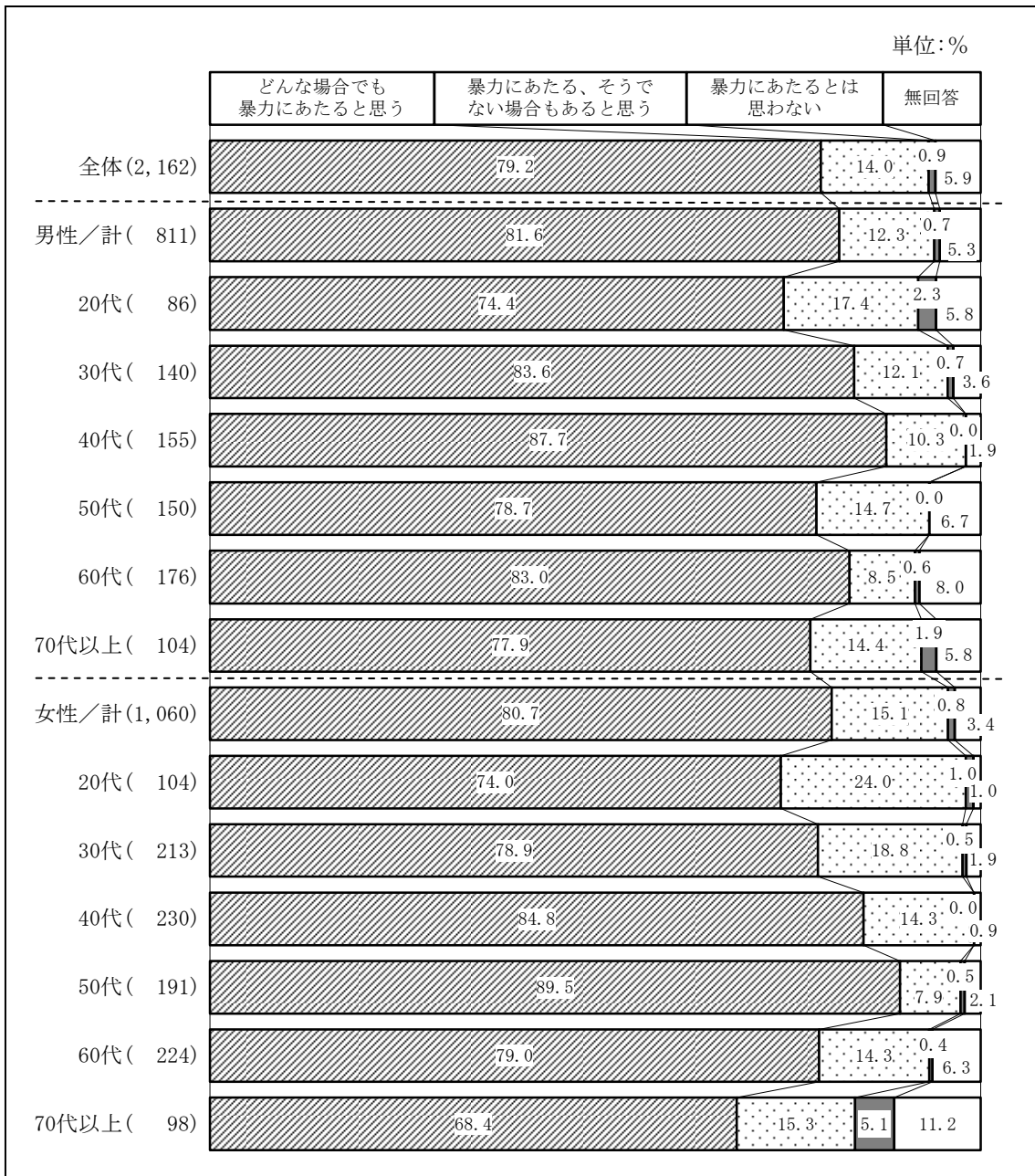
○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男性の40代（67.7%）と女性の50代（74.3%）が他の年代に比べて多くなっています。

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答は、男女ともに比較的若い年代で多く、女性の20代では44.2%となっています。

「暴力にあたるとは思わない」はいずれの年代でも10%未満にとどまっています。

足でける



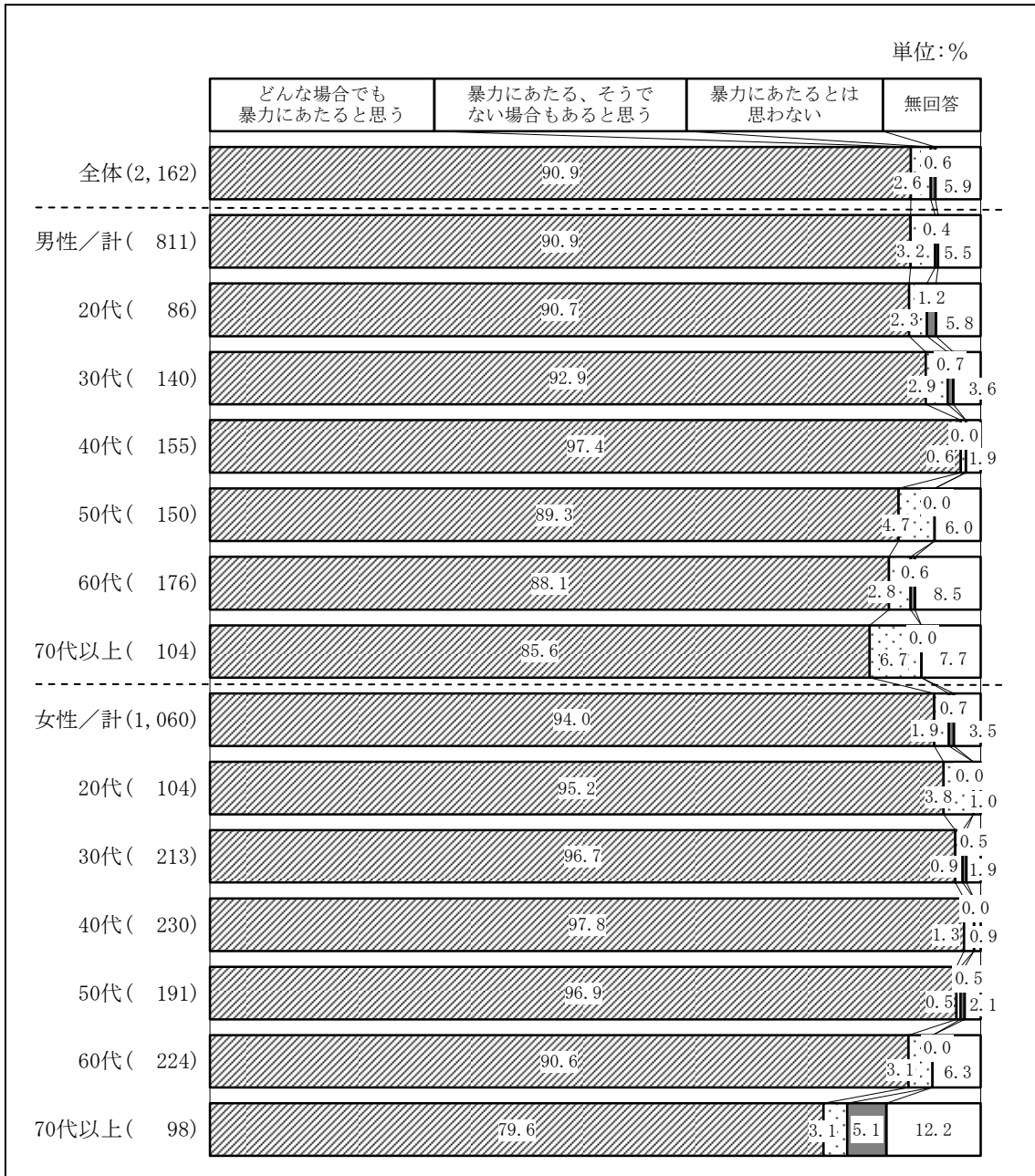
図表 123 暴力として認識される行為『足でける』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男性の30～40代と60代、女性の40～50代では8割以上であり、他の年代に比べて多くなっています。

「暴力にあたるとは思わない」は、いずれの年代でも10%未満にとどまっています。

体を傷つける可能性のある物でなくる



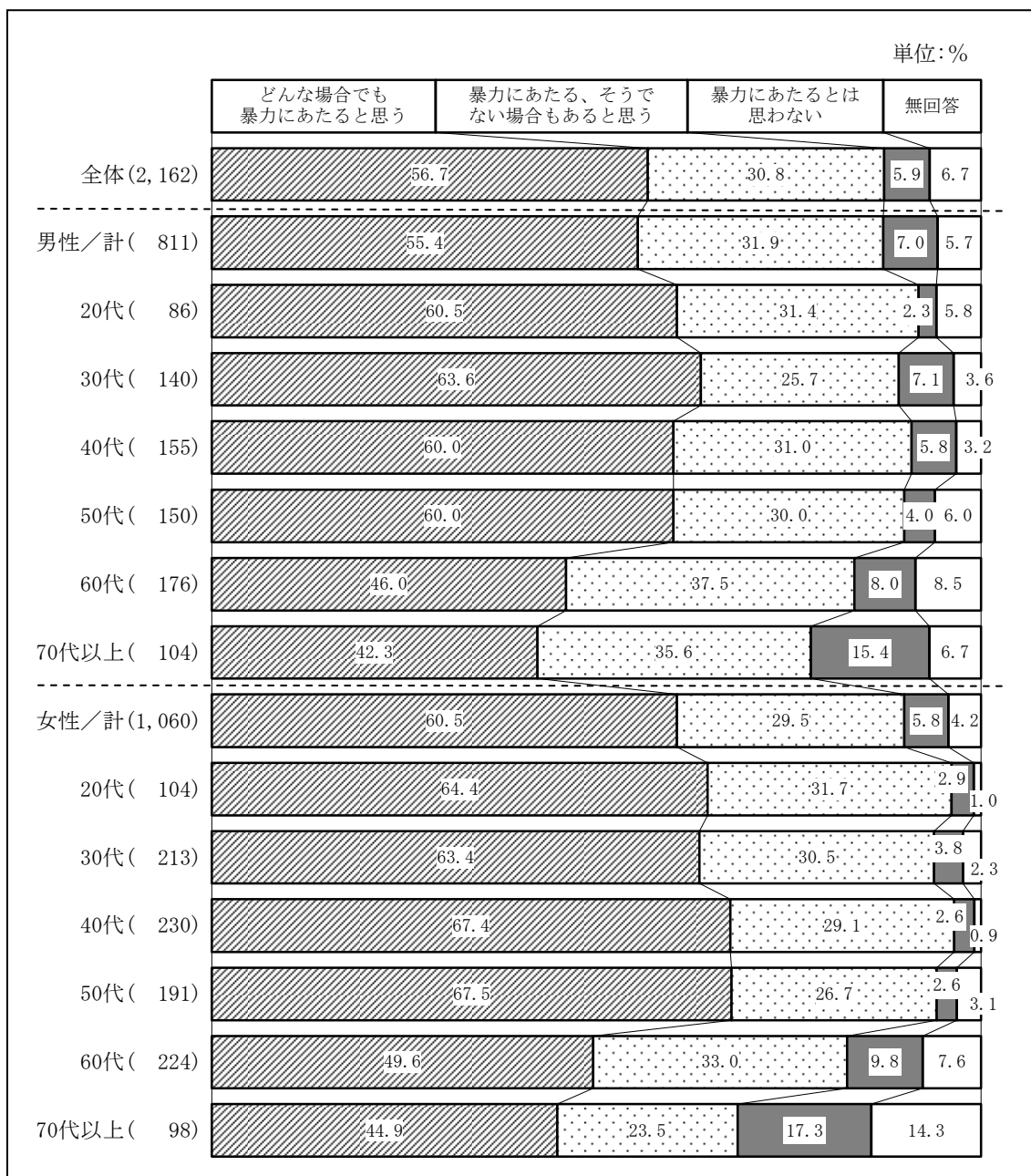
図表 124 暴力として認識される行為『体を傷つける可能性のある物でなくる』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男性の20～40代と女性の20～60代では9割以上を占めています。

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」は、男女ともにいずれの年代でも10%未満にとどまっています。

なぐるふりをして、おどす



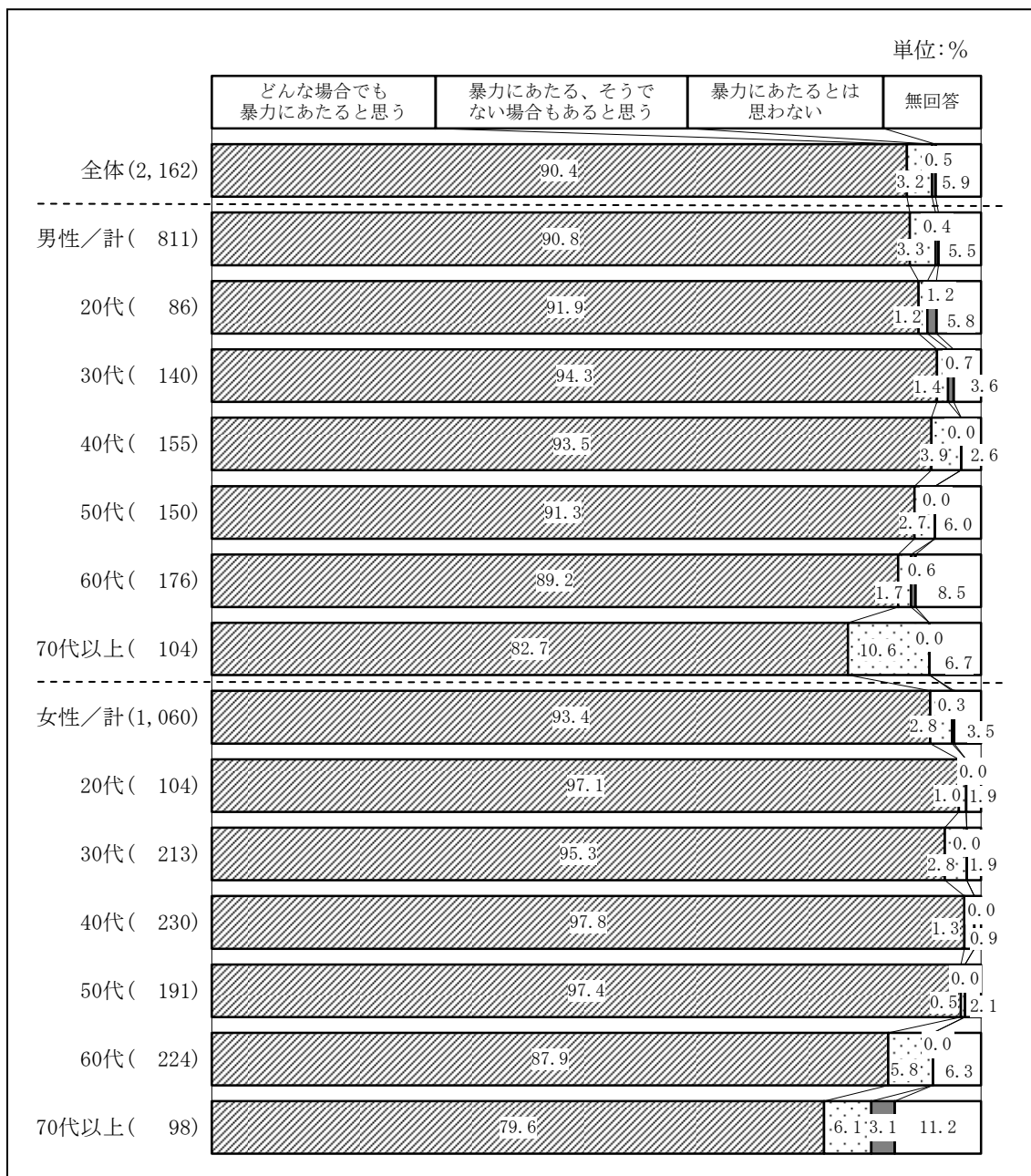
図表 125 暴力として認識される行為『なぐるふりをして、おどす』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男女ともに20～50代では6割台となっていますが、60代以上では4割台となっています。

「暴力にあたるとは思わない」は男女ともに70代以上で1割台、60代で1割弱であり、比較的高い年代で多い傾向にあります。

刃物などを突きつけて、おどす



図表 126 暴力として認識される行為『刃物などを突きつけて、おどす』（男女・年代別）

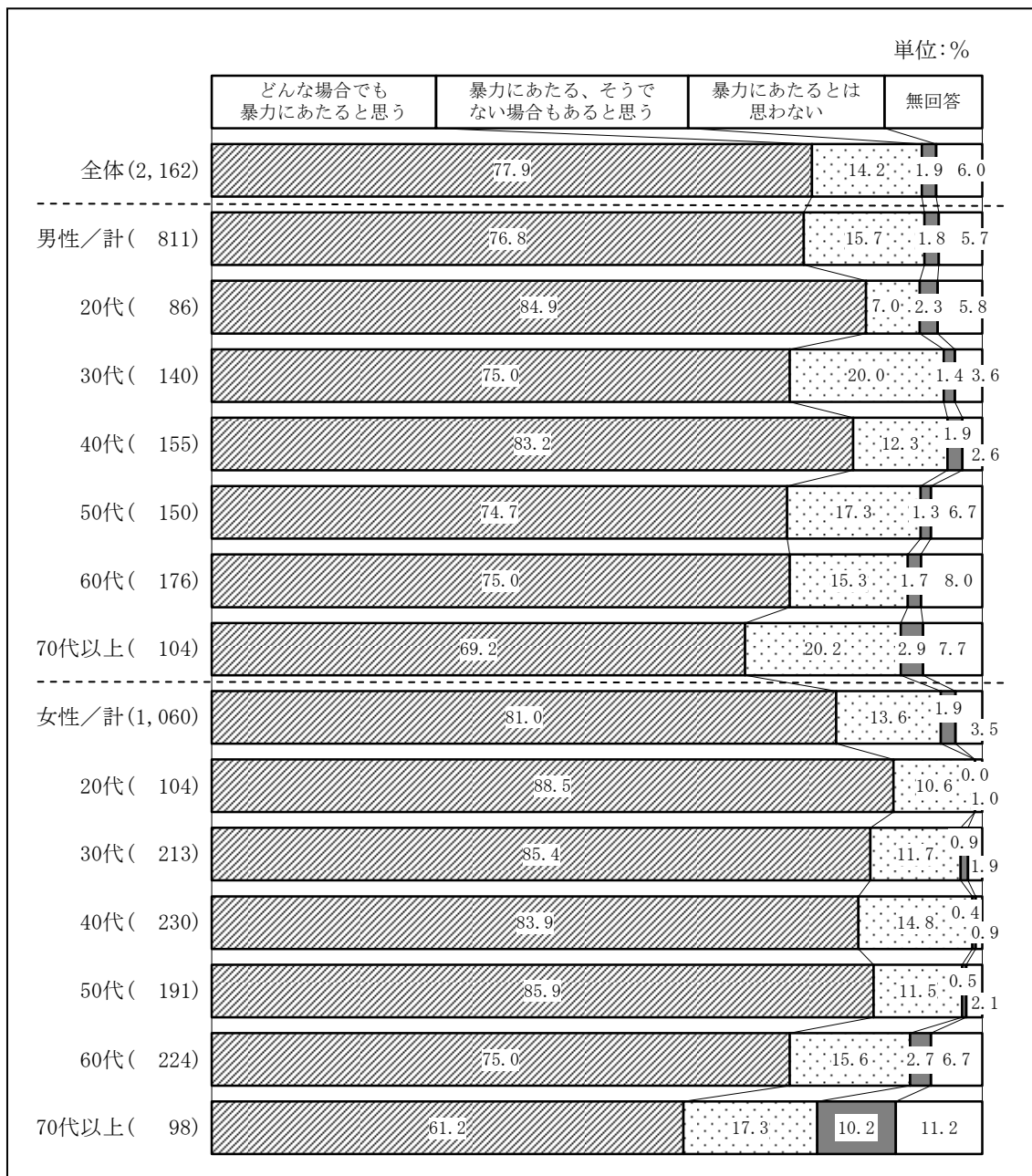
○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男女ともに20～50代では9割以上を占めています。

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答は、男性の70代以上を除くすべての年代で10%未満にとどまっています。

「暴力にあたるとは思わない」は、いずれの年代でも5%未満にとどまっています。

いやがっているのに性的な行為を強要する



図表 127 暴力として認識される行為『いやがっているのに性的な行為を強要する』(男女・年代別)

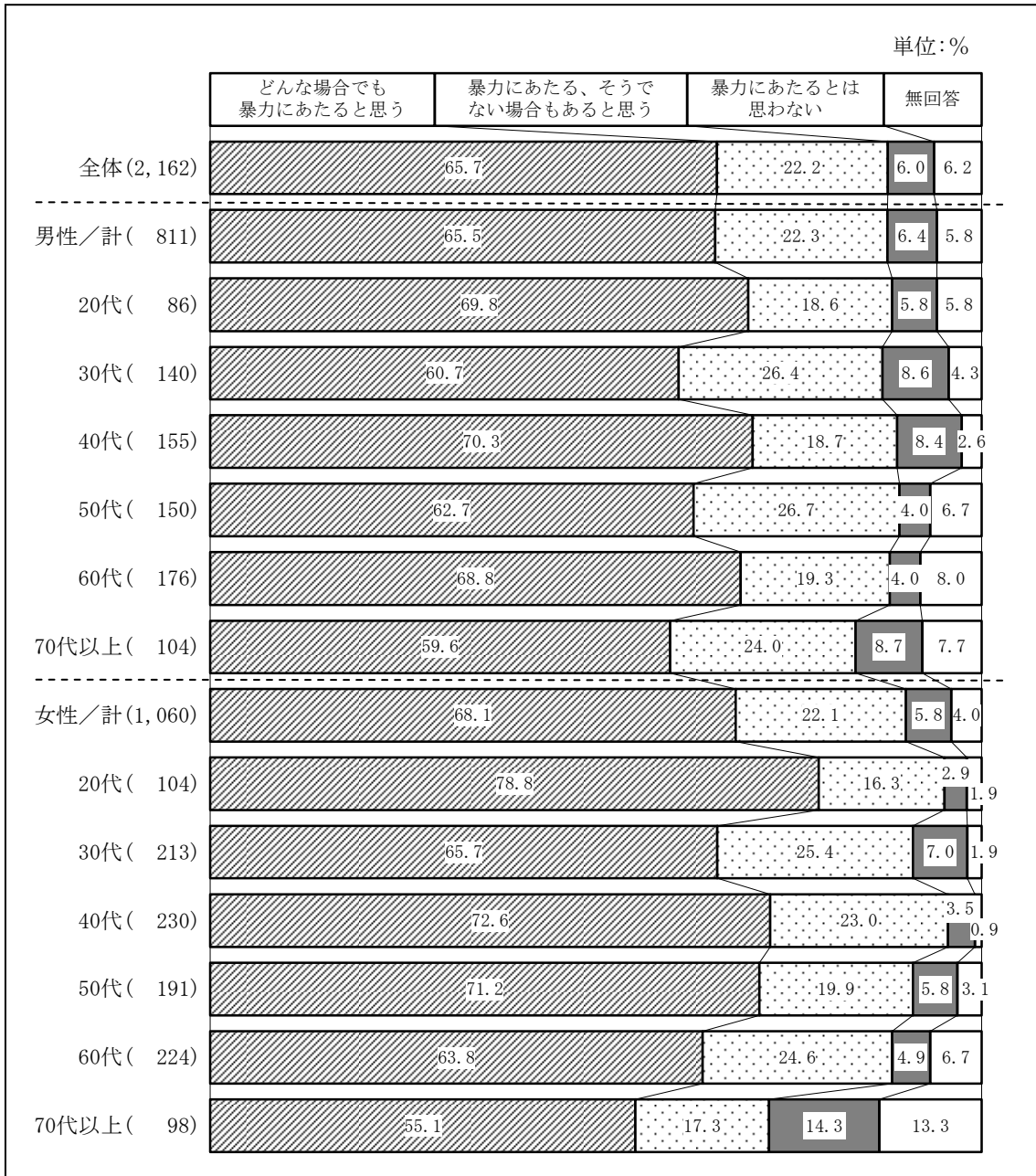
○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男性の20代と40代、女性の20～50代では8割以上を占めています。

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答は、女性はいずれの年代も1割台であるのに対し、男性の30代と70代以上では2割となっています。

「暴力にあたるとは思わない」は、女性の70代以上を除くすべての年代で5%未満にとどまっています。

見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる



図表 128 暴力として認識される行為『見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる』（男女・年代別）

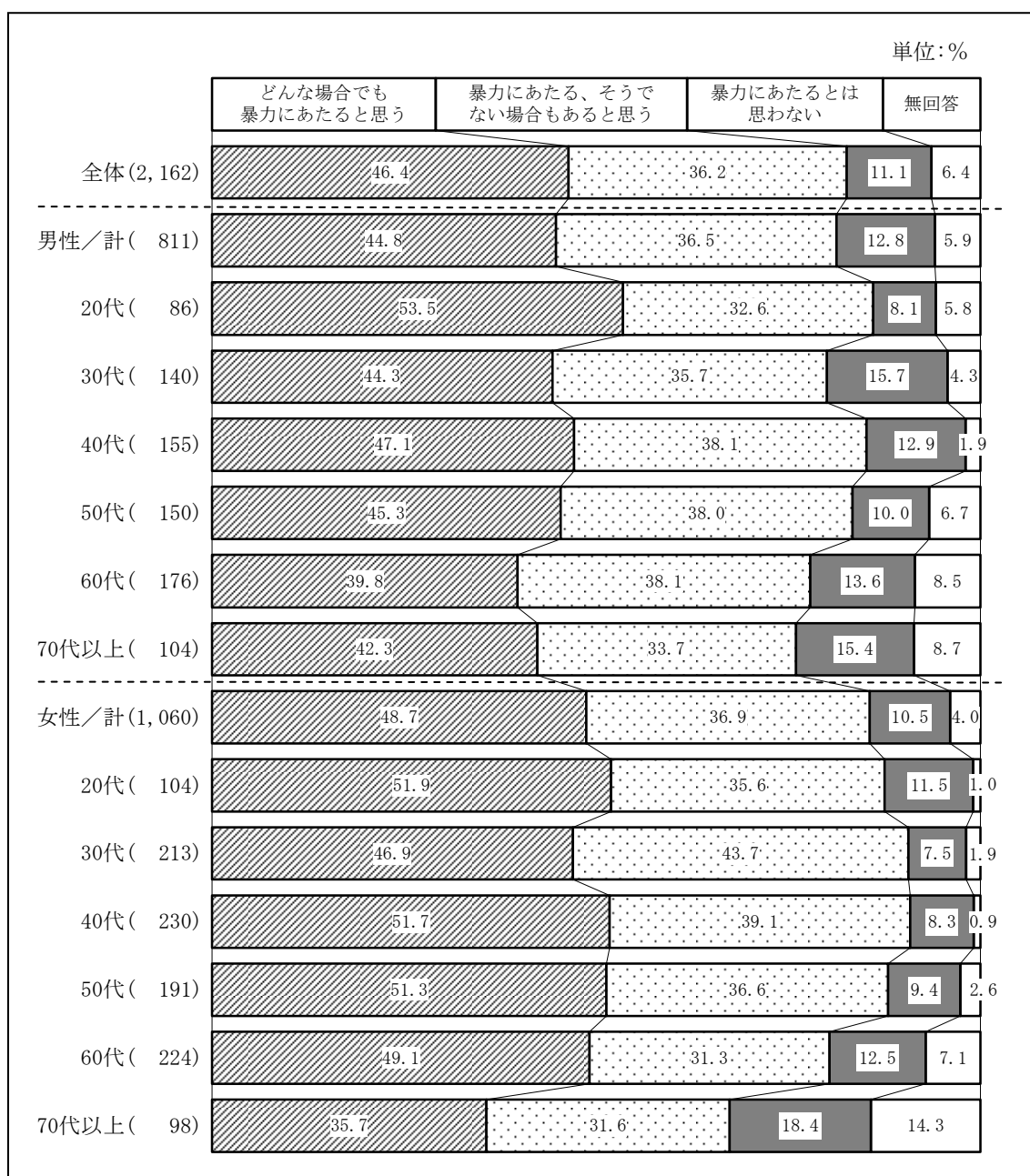
○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男性の20代と40代、60代で7割前後、女性の20代で8割弱を占めています。

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答は、男女いずれの年代とも1～2割台となっています。

「暴力にあたるとは思わない」は、女性の70代以上を除くすべての年代で10%未満にとどまっています。

何を言っても長時間無視し続ける



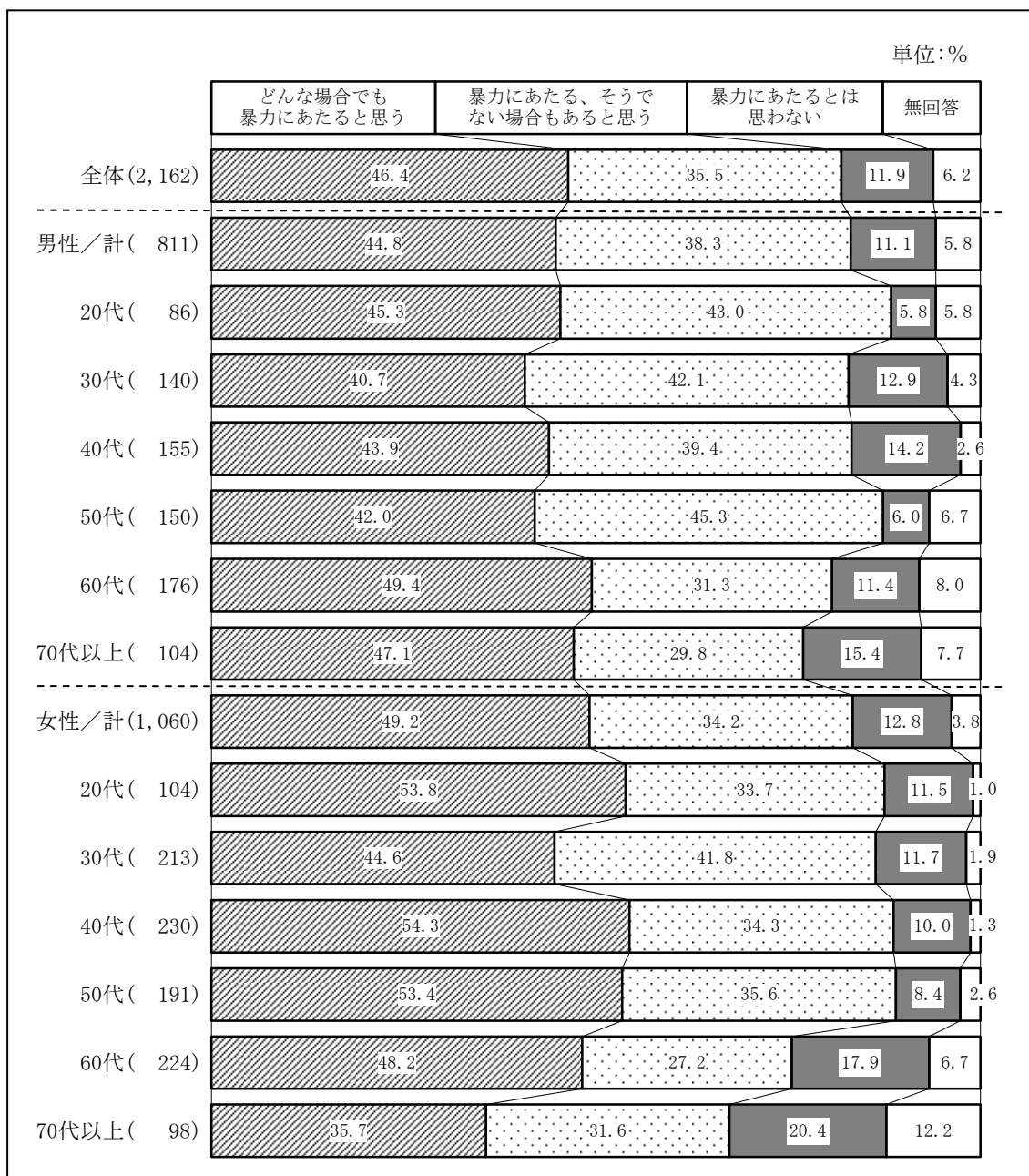
図表 129 暴力として認識される行為『何を言っても長時間無視し続ける』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、男女ともに20代と女性の40～50代では過半数を占めています。

「暴力にあたるとは思わない」は、女性の30代以上で年代が上がるとともに増加する傾向にあります。

交友関係や電話を細かく監視する



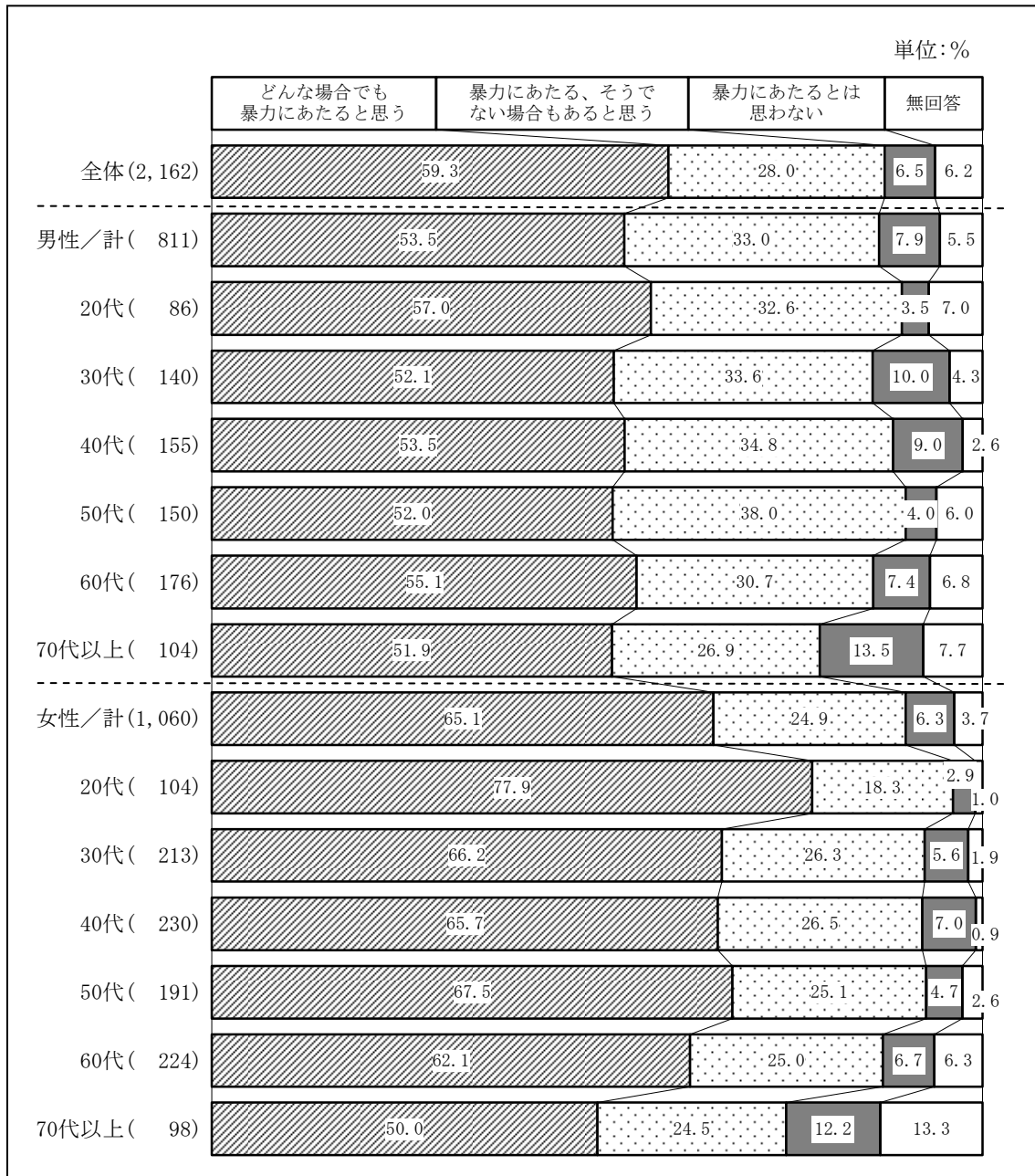
図表 130 暴力として認識される行為『交友関係や電話を細かく監視する』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、女性の20代と40～50代では過半数を占めています。

「暴力にあたるとは思わない」は、男性では20代（5.8%）と50代（6.0%）が1割未満であるのに対し、30～40代と60代以上では1割台となっています。女性では20～50代では1割前後であるのに対し、60代以上では2割前後となっています。

「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」と言う

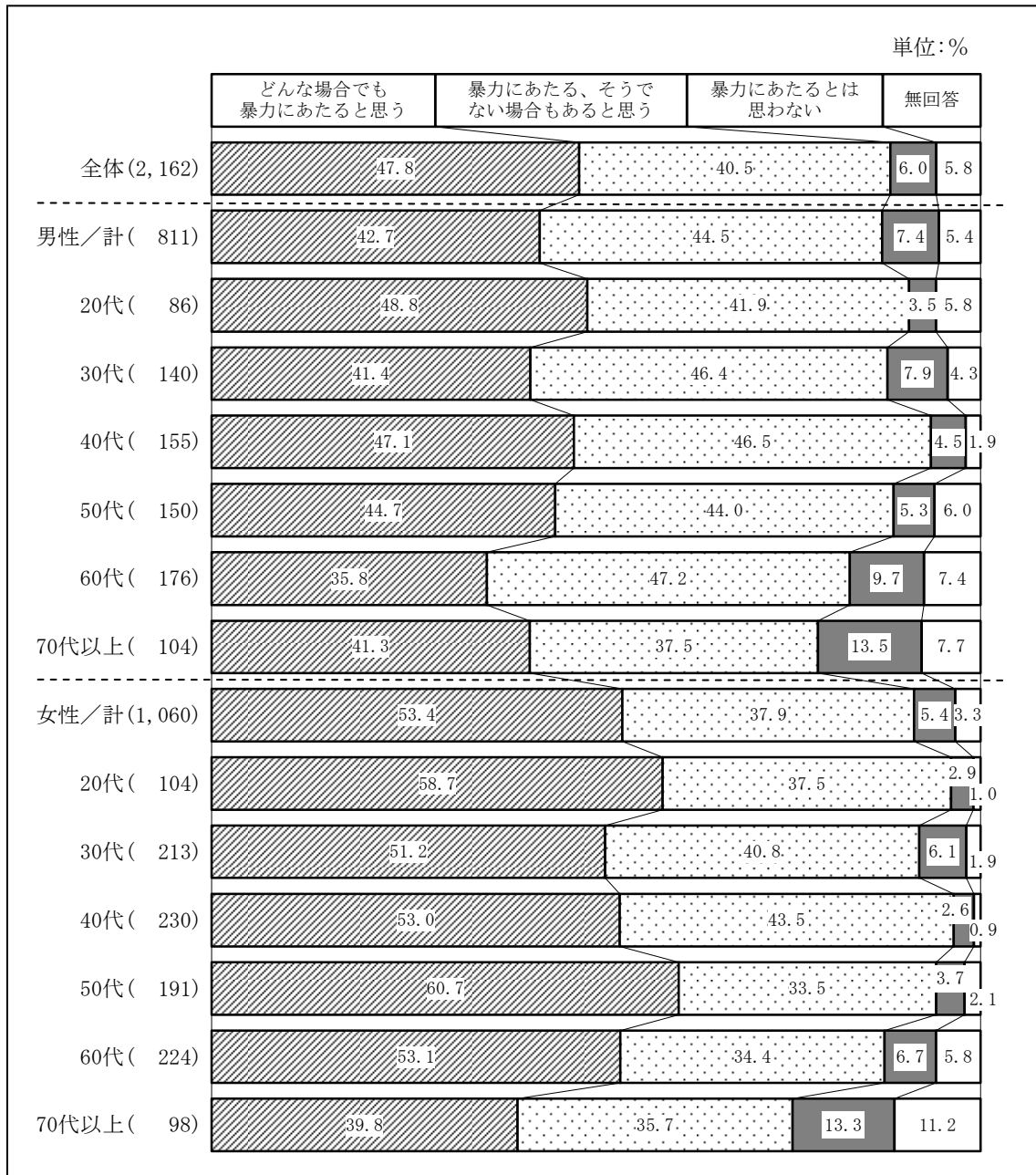


図表 131 暴力として認識される行為「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」と言う
(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、女性は20代(77.9%)をピークにおおむね年代が上がるとともに減少する傾向にあるのに対し、男性は年代による大きな違いは見られません。

大声でどなる



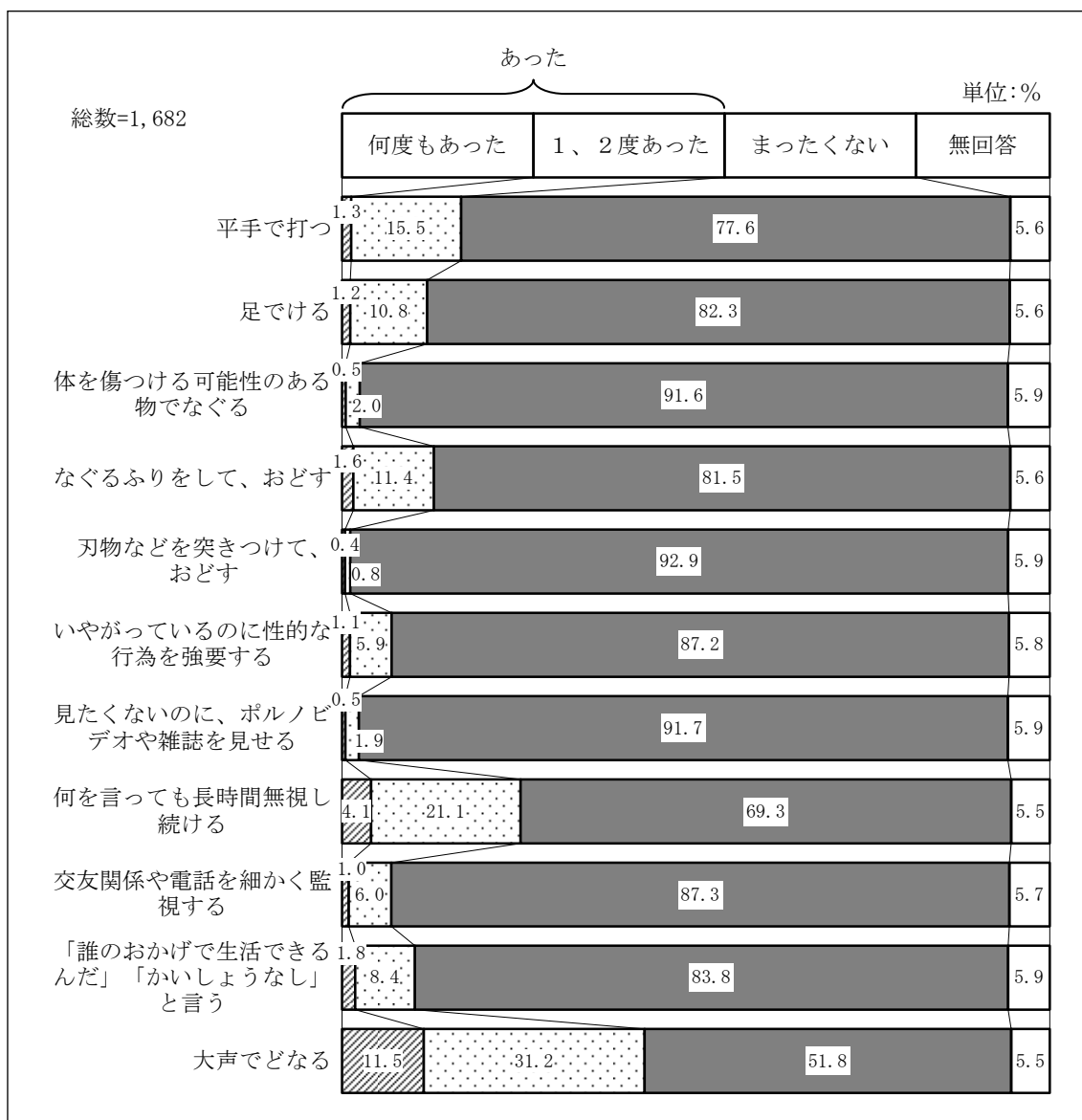
図表 132 暴力として認識される行為『大声でどなる』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答は、女性の20代と50代で6割前後を占めています。

問 24 配偶者などへの加害行為

(※これまで、配偶者などがいたことがある方への設問) あなたは、これまでに、あなたの配偶者などに対して次のような行為をしたことがありますか。(ア～サのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)

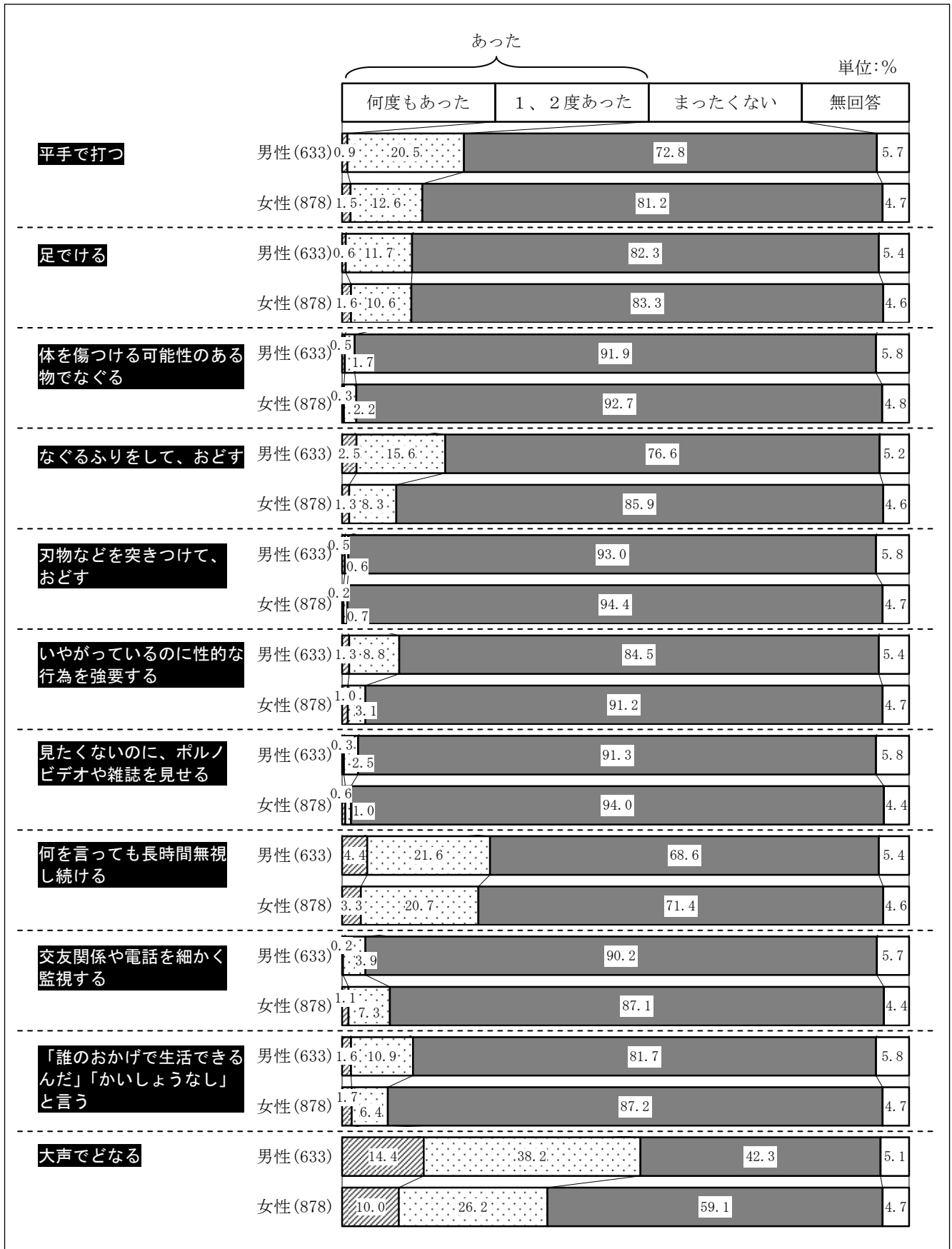


図表 133 配偶者などへの加害行為

○全体の傾向

配偶者などへの加害行為について、経験が“あった(「何度もあった」と「1、2度あった」の合計)”項目は、『大声でどなる』(42.7%)が最も多く、次いで『何を言っても長時間無視し続ける』(25.2%)、『平手で打つ』(16.8%)と続きます。

『大声でどなる』については、1割強が「何度もあった」と回答しています。



図表 134 配偶者などへの加害行為（男女別）

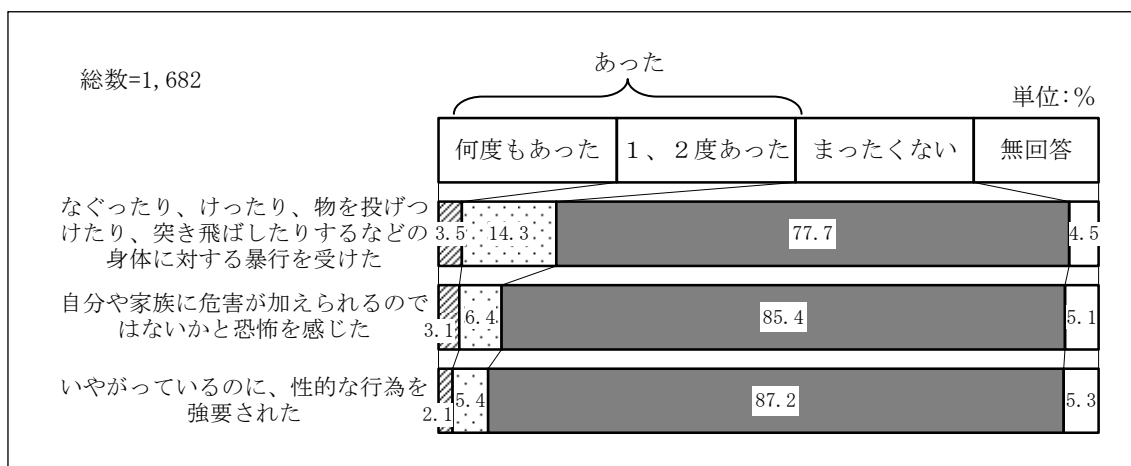
○男女別の傾向

『大声でどなる』は、男性（52.6%）が女性（36.2%）より15ポイント程度上回っており、過半数を占めています。

このほか、『何を言っても長時間無視し続ける』（男性：26.0%、女性：24.0%）、男性の『平手で打つ』（21.4%）については、配偶者などへの加害行為が“あった”という回答が2割以上と多くなっています。

問 25 配偶者などからの被害経験

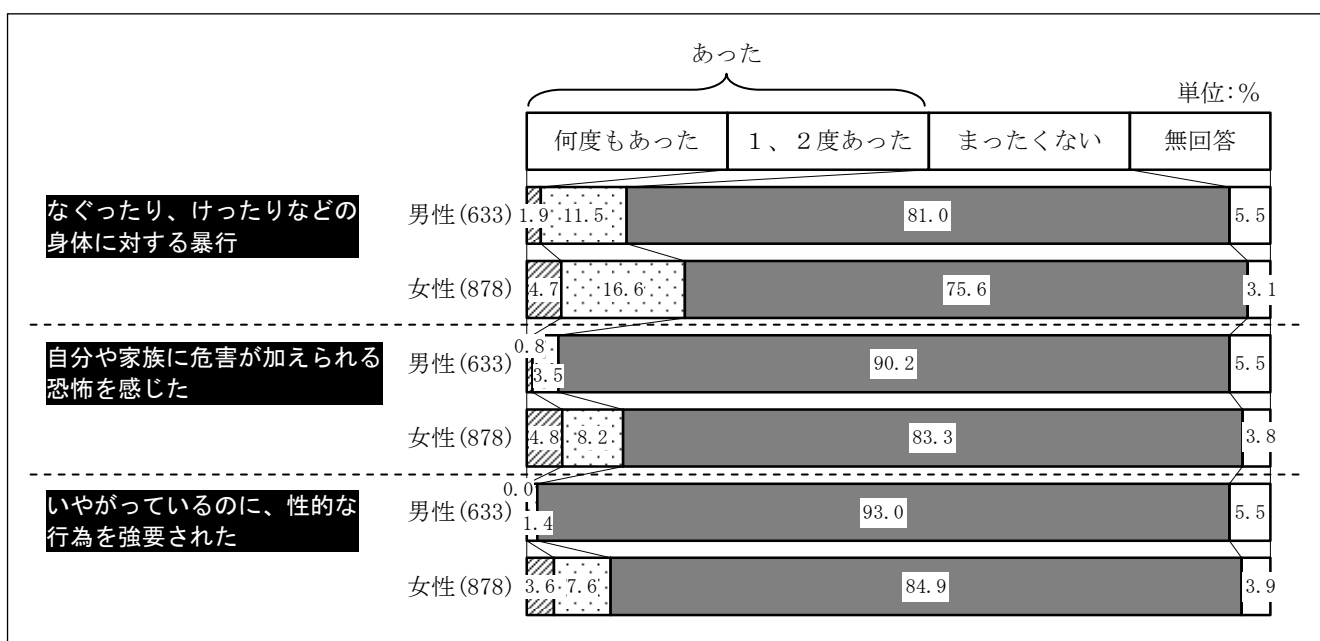
(※これまで、配偶者などがいたことがある方への設問) あなたはこれまでに、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。(ア～ウのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



図表 135 配偶者などからの被害経験

○全体の傾向

配偶者などからの暴力の被害経験について、被害経験が“あった(「何度もあった」と「1、2度あった」の合計)”という回答は、『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力』で17.8% (約6人に1人)、『自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じた』で9.5% (約10人に1人)、『いやがっているのに、性的な行為を強要された』で7.5% (約13人に1人) となっています。

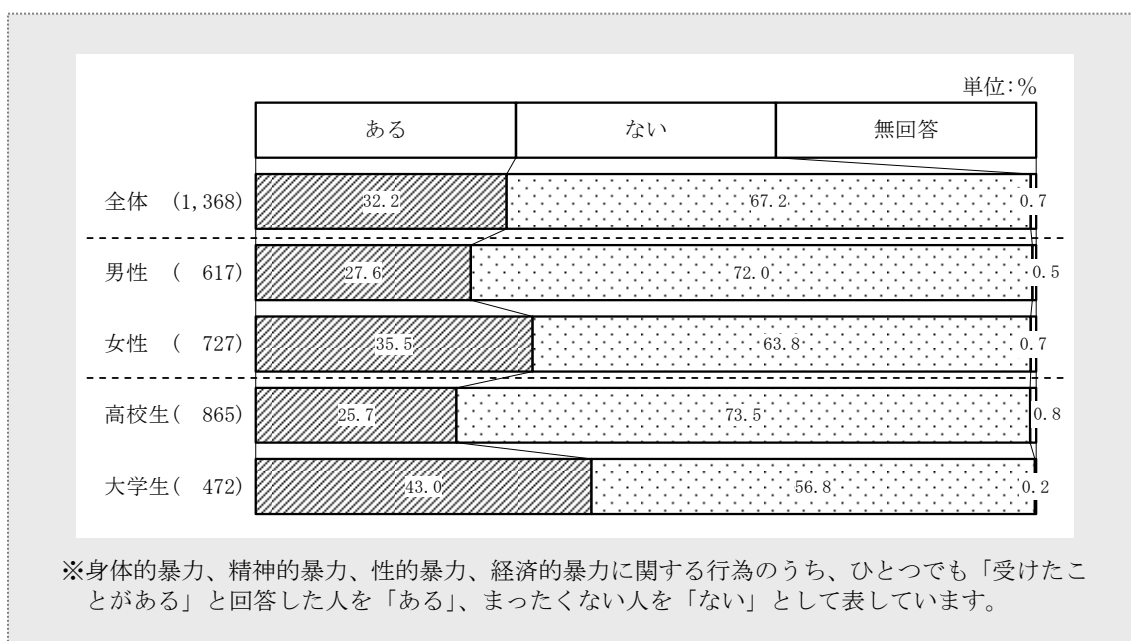


図表 136 配偶者などからの被害経験 (男女別)

○男女別の傾向

『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力』（男性：13.4%、女性：21.3%）、『自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じた』（男性：4.3%、女性：13.0%）、『いやがっているのに、性的な行為を強要された』（男性：1.4%、女性：11.2%）のいずれの被害経験についても、“あった”という回答は女性が男性を10ポイント程度上回っています。

《デートDV調査の結果》



図表 137 デートDVの被害経験《デートDV調査の結果》

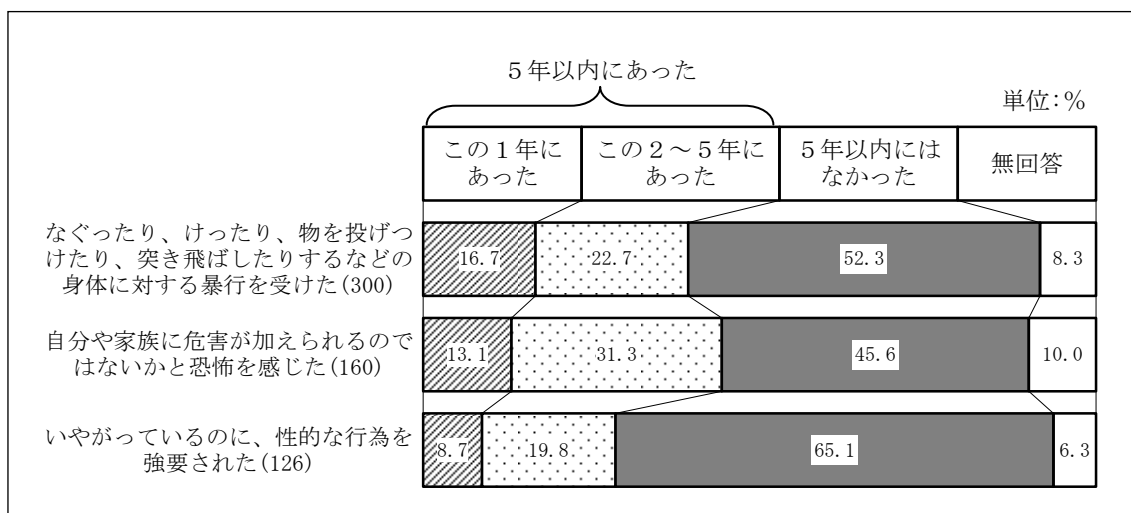
●デートDV調査の結果

高校生や大学生といった若年層においても、交際相手から暴力を受けた経験があります。本市のデートDV調査の結果をみると、全体の32.2%（約3人に1人）はデートDVの被害経験があると回答しています。特に大学生では43.0%（約2人に1人）となっています。

なお、本調査ではデートDV調査の「経済的暴力」に相当する行為を調査の対象としません。

問 25- 1 配偶者などからの被害経験の時期

※問 25 でひとつでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した方におうかがいします。この1年とこの2～5年では、いかがでしたか。(ア～ウのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



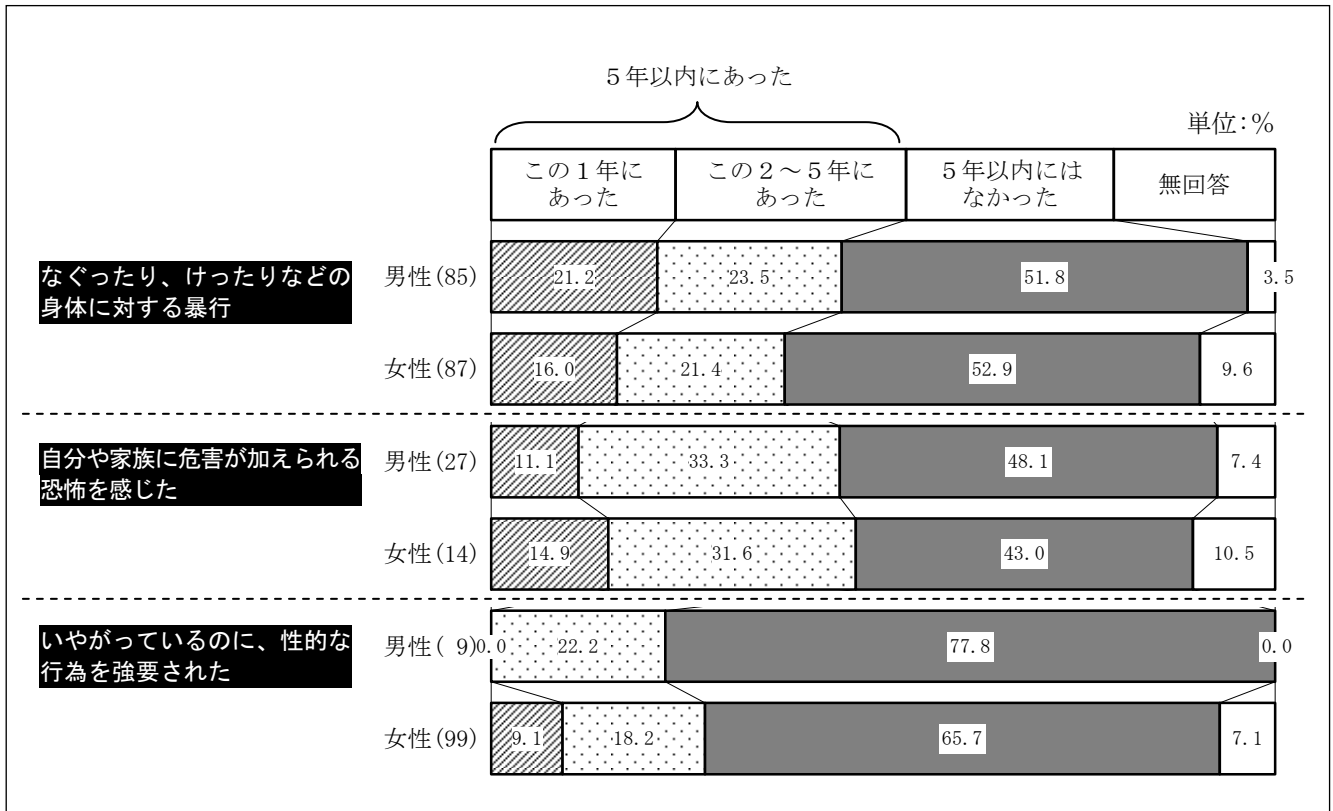
図表 138 配偶者などからの被害経験の時期

○全体の傾向

『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた』経験が“あった”と回答した人のうち、39.4%が“5年以内にあった”(「この1年にあった」と「この2～5年にあった」の合計)、さらに16.7%が「この1年にあった」と回答しています。

『自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じた』経験が“あった”と回答した人のうち、44.4%が“5年以内にあった”、さらに13.1%が「この1年にあった」と回答しています。

『いやがっているのに、性的な行為を強要された』経験が“あった”と回答した人のうち、28.5%が“5年以内にあった”、さらに8.7%が「この1年にあった」と回答しています。



図表 139 配偶者などからの被害経験の時期（男女別）

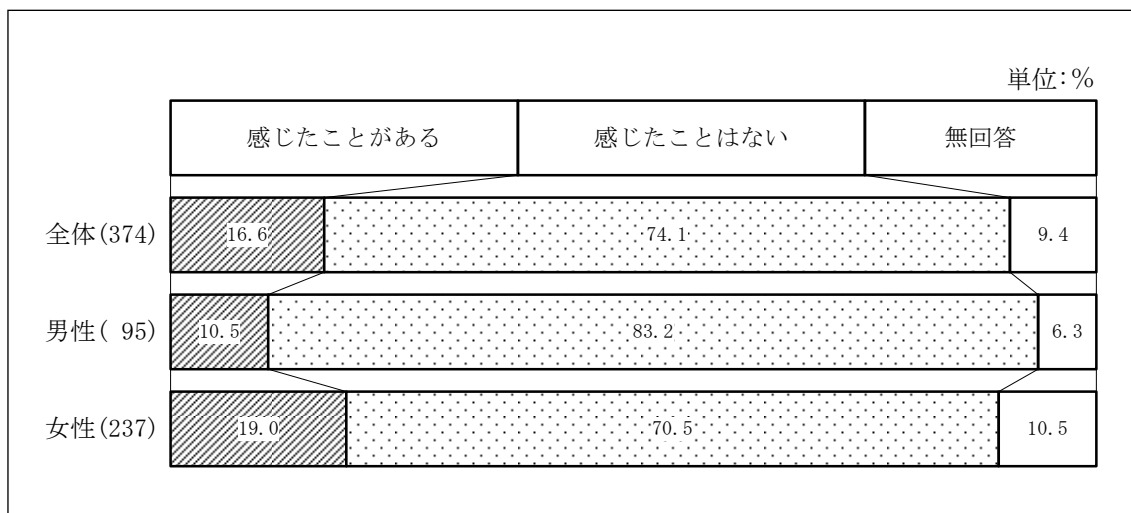
○男女別の傾向

この5年以内に『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた』があったという回答は、男性が女性を上回っています。

問 25-2 命の危険を感じたこと

※問 25 でひとつでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した方におうかがいします。あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。

(〇は1つ)



図表 140 命の危険を感じたこと

○全体の傾向

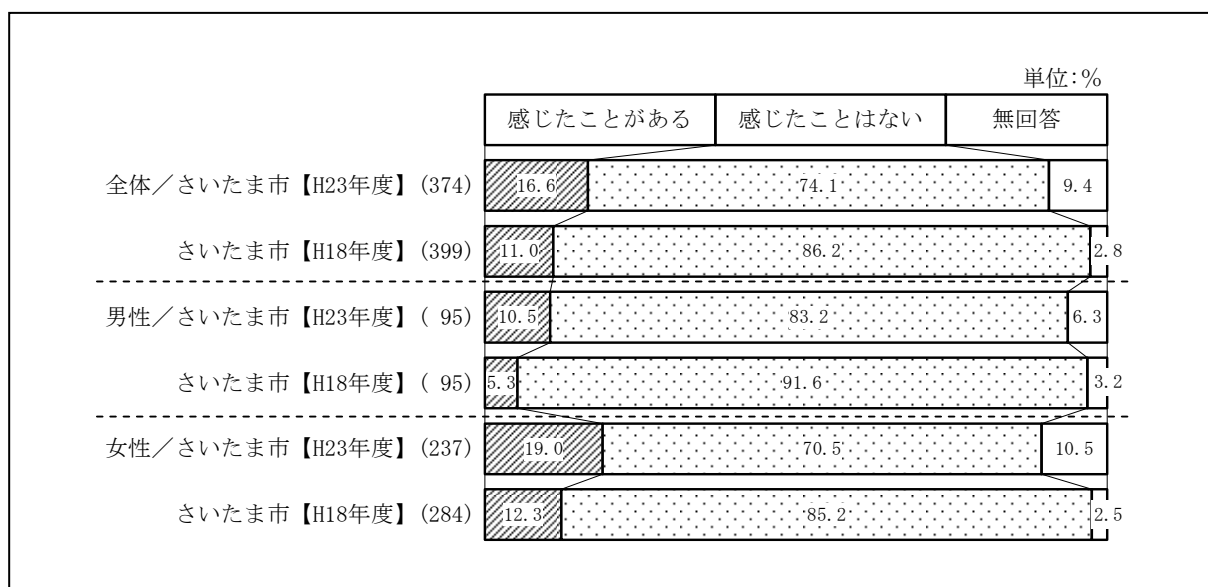
配偶者などから暴力行為を受けた際に、命の危険を「感じたことがある」が 16.6%、「感じたことはない」が 74.1%となっています。

○男女別の傾向

配偶者などから何らかの暴力を受けた人のうち、男性では約 10 人に 1 人、女性では約 5 人に 1 人が命の危険を「感じたことがある」と回答しています。

命の危険を「感じたことがある」(男性：10.5%、女性：19.0%)という回答は、女性が男性を 8 ポイント上回っています。

《前回調査との比較》



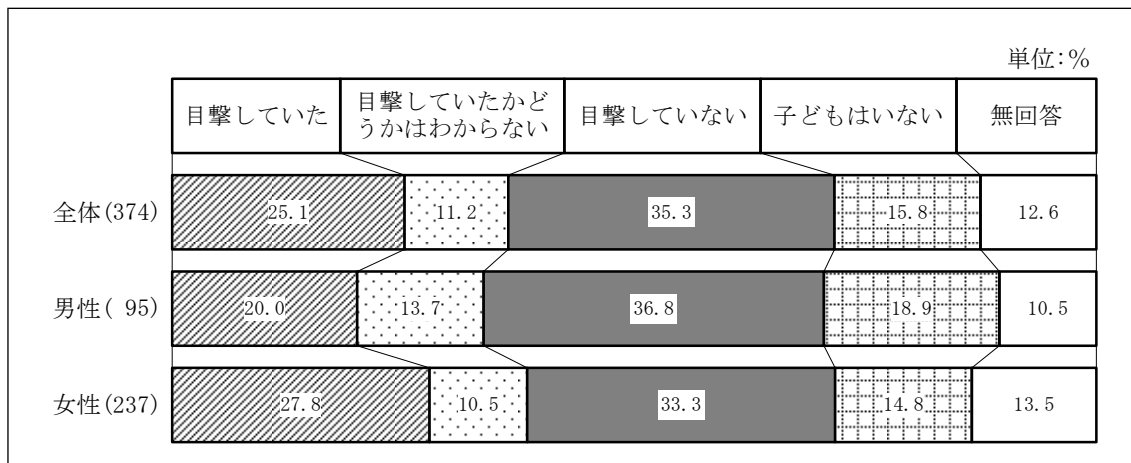
図表 141 命の危険を感じたこと《前回調査との比較》

●前回調査との比較

前回調査と比較すると、全体、男女ともに、命の危険を「感じたことがある」がそれぞれ5ポイント以上増加しています。

問 25-3 暴力行為について、子どもの目撃の有無

※問 25 でひとつでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した方におうかがいします。あなたがその行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。(〇は1つ)



図表 142 暴力行為について、子どもの目撃の有無

○全体の傾向

配偶者などからの暴力行為を子どもが目撃していたかどうかについては、「目撃していない」が 35.3%を占めるものの、「目撃していた」が 25.1%であり、配偶者から何らかの暴力を受けた人のうち、約4人に1人が「目撃していた」と回答しています。

○男女別の傾向

男女ともに「目撃していない」が3割強(男性:36.8%、女性:33.3%)を占めるものの、男性の5人に1人(20.0%)、女性の約4人に1人(27.8%)が「目撃していた」と回答しています。

		全体	目撃していた	か目撃し かどらう かはない わたく	目撃して いない	子どもは いない	無回答
全体		309 100.0	91 29.4	38 12.3	122 39.5	17 5.5	41 13.3
男女・ 子ども の有無別	男性/いる(6歳未満)	19 100.0	5 26.3	3 15.8	7 36.8	1 5.3	3 15.8
	いる(6歳以上)	53 100.0	12 22.6	9 17.0	25 47.2	3 5.7	4 7.5
	女性/いる(6歳未満)	26 100.0	15 57.7	2 7.7	5 19.2	3 11.5	1 3.8
	いる(6歳以上)	169 100.0	47 27.8	20 11.8	66 39.1	8 4.7	28 16.6
	無回答	42 100.0	12 28.6	4 9.5	19 45.2	2 4.8	5 11.9

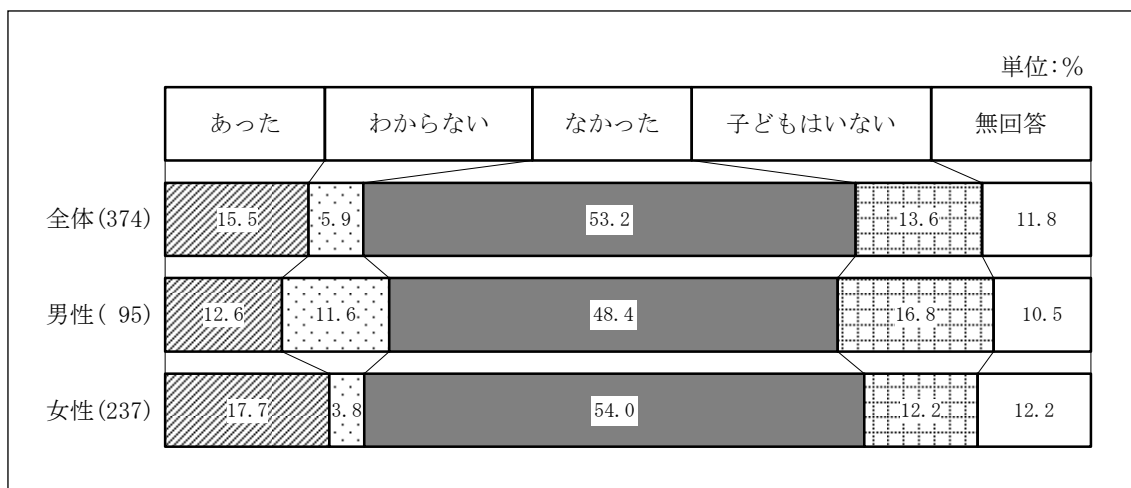
図表 143 暴力行為について、子どもの目撃の有無(男女・子どもの有無別)

○男女・子どもの有無別の傾向

《子どもがいる(6歳未満)》の女性の57.7%が「目撃していた」と回答しています。ただし、実態を把握するデータとしては標本数が少ない点に留意する必要があります。

問 25-4 子どもへの暴力行為の有無

※問 25 でひとつでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した方におうかがいします。その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされていたのと同じ行為をしたことがありましたか。(〇は1つ)



図表 144 子どもへの暴力行為の有無

○全体の傾向

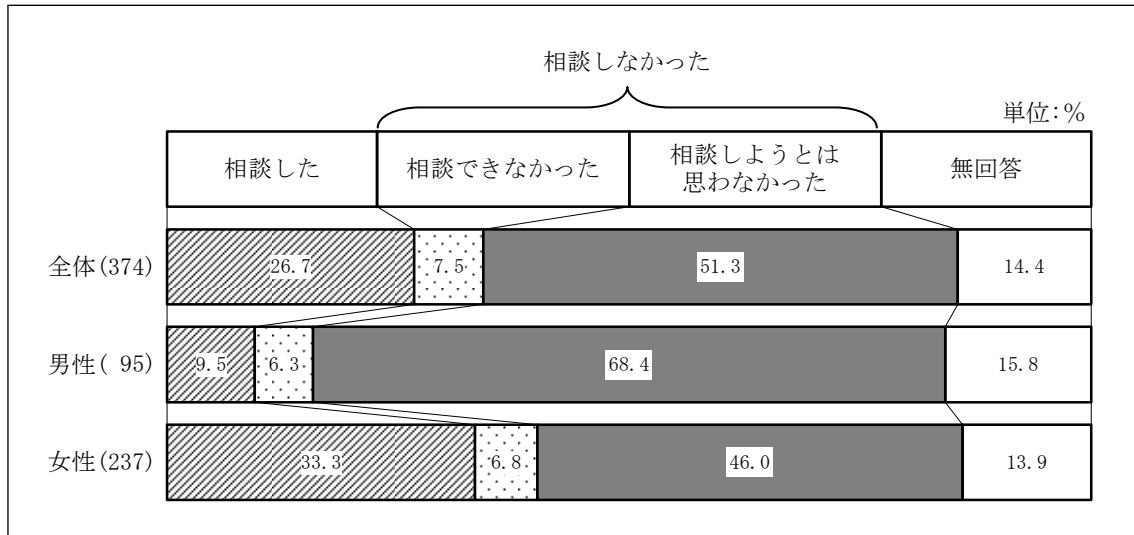
子どもへの暴力行為の有無については、「なかった」(53.2%)が過半数を占めるものの、約6人に1人が「あった」(15.5%)と回答しています。

○男女別の傾向

男女ともに「なかった」が5割前後(男性:48.4%、女性:54.0%)を占めるものの、男性の約8人に1人(12.6%)、女性の約6人に1人(17.7%)が「あった」と回答しています。

問 25-5 暴力についての相談経験

※問 25 でひとつでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した方におうかがいします。あなたはこれまでに、その相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)



図表 145 暴力についての相談経験

○全体の傾向

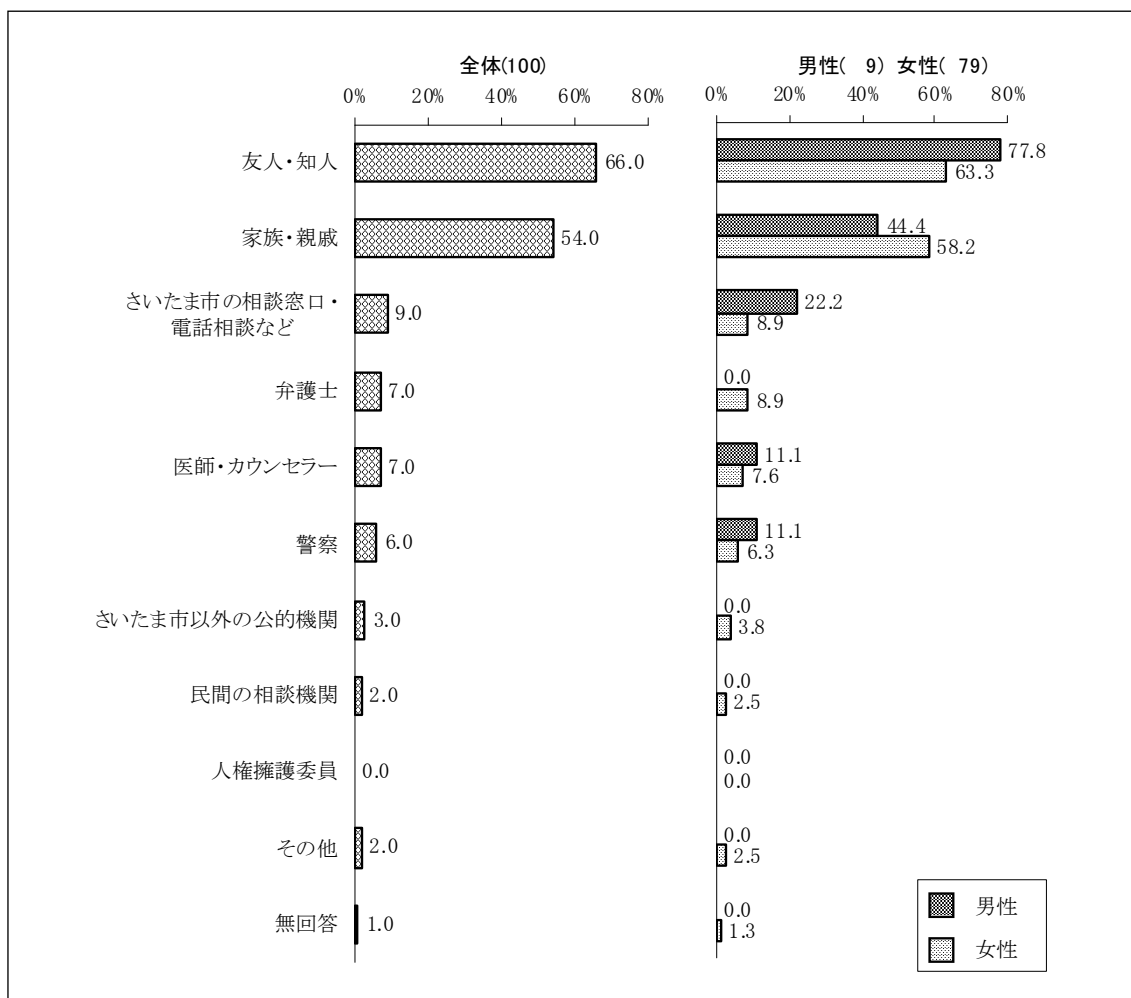
配偶者などから受けた行為について、「相談した」と回答した人は26.7%であるのに対し、58.8%は“相談しなかった（「相談できなかった」と「相談しようとは思わなかった」の合計）”と回答しています。

○男女別の傾向

男性で「相談した」と回答した人は9.5%にとどまっており、“相談しなかった”が74.7%を占めています。一方、女性は33.3%が「相談した」と回答していますが、“相談しなかった”が過半数（52.8%）を占めています。

問 25-6 相談した相手（場所）

※問 25-5で「1. 相談した」と回答した方におうかがいします。あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）



図表 146 相談した相手（場所）

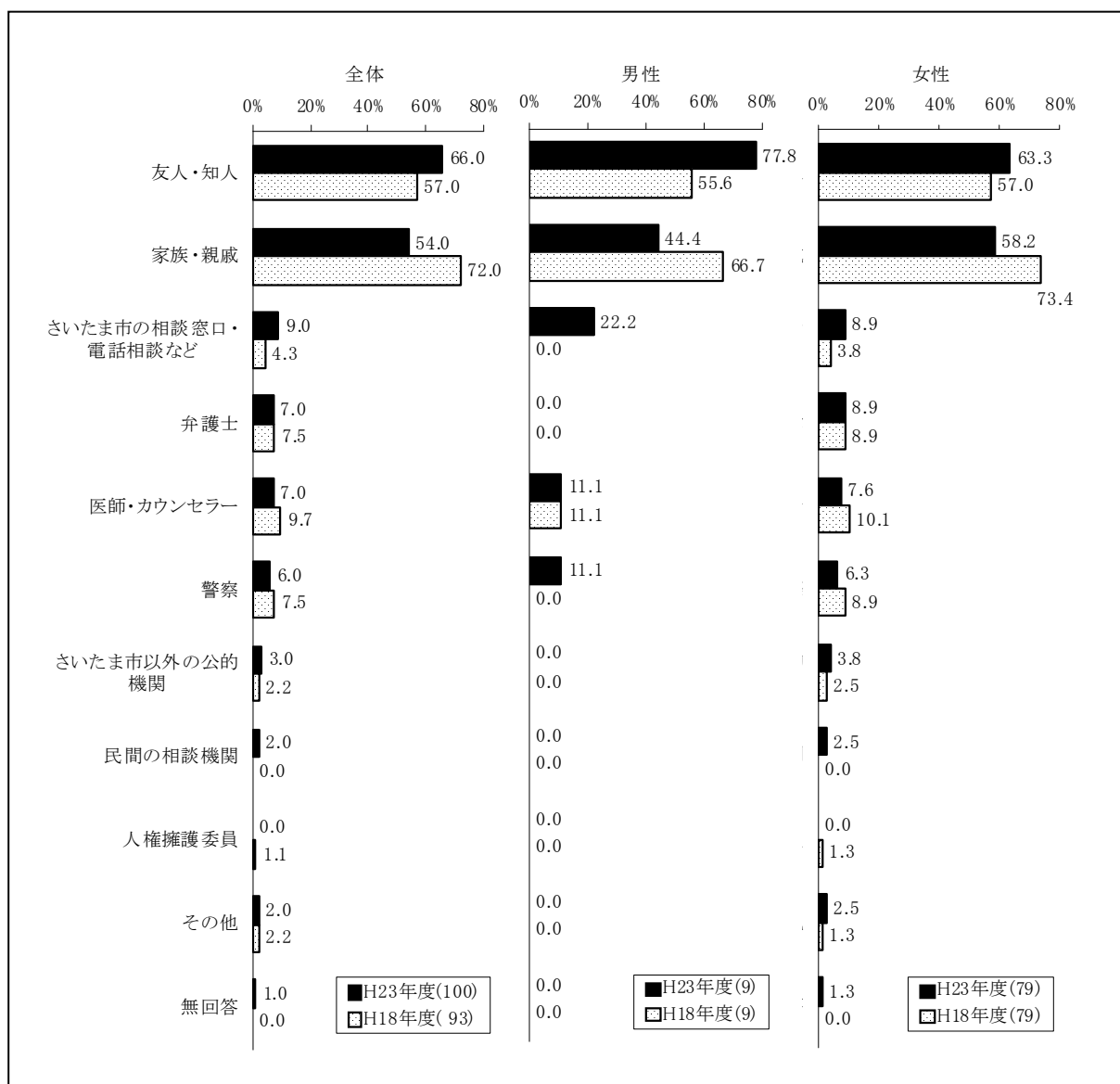
○全体の傾向

配偶者などから受けた行為について「相談した」と回答した人に対し、相談先を聞いたところ、「友人・知人」（66.0%）、「家族・親戚」（54.0%）など、身近な人への相談が多くなっています。その他の相談先はいずれも 10%未満であり、「さいたま市の相談窓口・電話相談など」は9.0%となっています。

○男女別の傾向

男性の回答数が少ないものの、男女ともに「友人・知人」（男性：77.8%、女性：63.3%）が最も多くなっています。

《前回調査との比較》



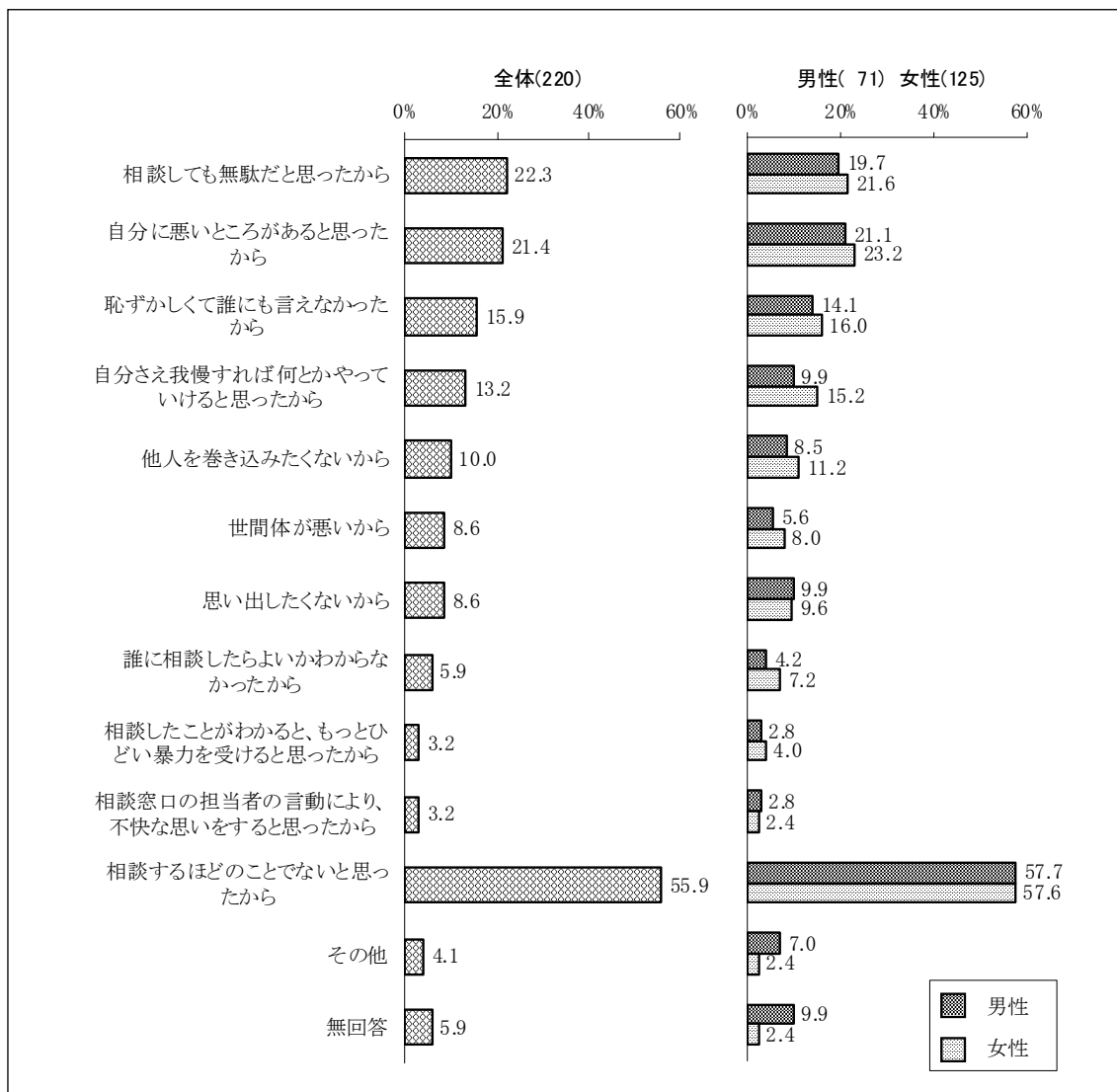
図表 147 相談した相手（場所）《前回調査との比較》

●前回調査との比較

前回調査と比較すると、最も多かった「家族・親戚」が18ポイント減少し、今回調査では「友人・知人」が最も多くなっています。また、「さいたま市の相談窓口・電話相談など」が増加しています。

問 25-7 相談できなかった理由

※問 25-5で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようとは思わなかった」と回答した方におうかがいします。あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）



図表 148 相談できなかった理由

○全体の傾向

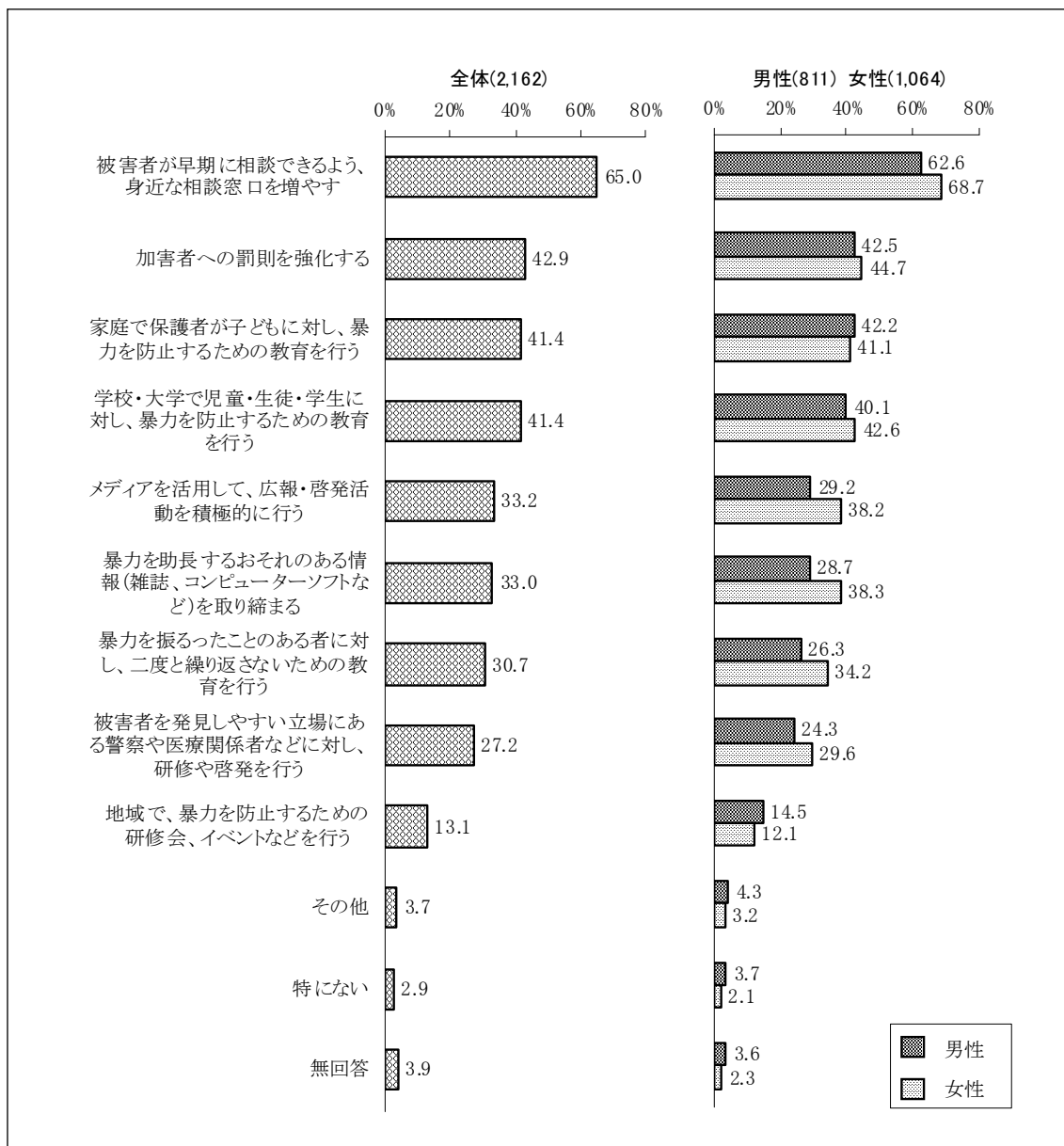
相談できなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」（22.3%）、「自分に悪いところがあると思ったから」（21.4%）が2割強である一方で、「相談するほどのことでないと思ったから」が55.9%を占めています。

○男女別の傾向

ほとんどの項目で女性が男性を上回っているものの、男女で回答傾向に大きな違いは見られません。

問 26 配偶者などの間における暴力を防止するために必要なこと

配偶者などの間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
(〇はいくつでも)



図表 149 配偶者などの間における暴力を防止するために必要なこと

○全体の傾向

配偶者などの間における暴力を防止するために必要なこととして、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(65.0%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(42.9%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(41.4%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(41.4%)が挙げられます。

○男女別の傾向

「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」（男性：29.2%、女性：38.2%）、
「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」（男性：28.7%、女性：38.3%）は女性が男性をそれぞれ10ポイント程度上回っています。

	全体	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を行う	被害者が早期に相談できるような身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる	その他	特になし	無回答
全体	2,162 100.0	895 41.4	894 41.4	284 13.1	718 33.2	1,406 65.0	588 27.2	664 30.7	928 42.9	714 33.0	80 3.7	62 2.9	85 3.9	
男女・年代別	男性／20代	86 100.0	38 44.2	31 36.0	11 12.8	22 25.6	59 68.6	26 30.2	26 30.2	45 52.3	22 25.6	3 3.5	4 4.7	2 2.3
	30代	140 100.0	61 43.6	52 37.1	15 10.7	33 23.6	85 60.7	42 30.0	40 28.6	69 49.3	23 16.4	10 7.1	7 5.0	5 3.6
	40代	155 100.0	64 41.3	66 42.6	17 11.0	45 29.0	108 69.7	38 24.5	38 24.5	77 49.7	37 23.9	5 3.2	6 3.9	2 1.3
	50代	150 100.0	66 44.0	60 40.0	23 15.3	49 32.7	93 62.0	39 26.0	48 32.0	59 39.3	60 40.0	7 4.7	5 3.3	2 1.3
	60代	176 100.0	71 40.3	71 40.3	31 17.6	60 34.1	113 64.2	34 19.3	34 19.3	60 34.1	60 34.1	5 2.8	2 1.1	11 6.3
	70代以上	104 100.0	42 40.4	45 43.3	21 20.2	28 26.9	50 48.1	18 17.3	27 26.0	35 33.7	31 29.8	5 4.8	6 5.8	7 6.7
	女性／20代	104 100.0	46 44.2	43 41.3	16 15.4	36 34.6	78 75.0	34 32.7	33 31.7	55 52.9	34 32.7	4 3.8	1 1.0	2 1.9
	30代	213 100.0	90 42.3	91 42.7	16 7.5	76 35.7	158 74.2	77 36.2	76 35.7	117 54.9	64 30.0	13 6.1	1 0.5	1 0.5
	40代	230 100.0	97 42.2	104 45.2	32 13.9	97 42.2	159 69.1	75 32.6	90 39.1	119 51.7	92 40.0	5 2.2	6 2.6	1 0.4
	50代	191 100.0	76 39.8	91 47.6	24 12.6	79 41.4	133 69.6	57 29.8	73 38.2	86 45.0	74 38.7	5 2.6	3 1.6	4 2.1
	60代	224 100.0	86 38.4	88 39.3	23 10.3	89 39.7	139 62.1	49 21.9	65 29.0	70 31.3	102 45.5	5 2.2	7 3.1	8 3.6
	70代以上	98 100.0	41 41.8	33 33.7	18 18.4	27 27.6	62 63.3	22 22.4	27 27.6	28 28.6	41 41.8	2 2.0	4 4.1	8 8.2
	無回答	291 100.0	117 40.2	119 40.9	37 12.7	77 26.5	169 58.1	77 26.5	87 29.9	108 37.1	74 25.4	11 3.8	10 3.4	32 11.0

図表 150 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男女ともに「加害者への罰則を強化する」は40代以下で5割前後を占めており、年代が上がるるとともに減少する傾向にあります。

		家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報誌、コンピュータソフトなどを取り締まる	その他	特になし	無回答	
	全体	701 100.0	710 42.2	223 13.3	581 34.5	1,099 65.3	443 26.3	516 30.7	713 42.4	587 34.9	54 3.2	49 2.9	48 2.9	
被害経験別	何度もあった	59 100.0	22 37.3	21 35.6	6 10.2	20 33.9	25 42.4	11 18.6	24 40.7	19 32.2	14 23.7	4 6.8	5 8.5	3 5.1
	1、2度あった	241 100.0	87 36.1	104 43.2	31 12.9	95 39.4	119 49.4	49 20.3	49 20.3	84 34.9	75 31.1	9 3.7	12 5.0	2 0.8
	まったくない	1,307 100.0	565 43.2	563 43.1	171 13.1	455 34.8	916 70.1	370 28.3	424 32.4	587 44.9	474 36.3	41 3.1	30 2.3	31 2.4
	無回答	75 100.0	27 36.0	22 29.3	15 20.0	11 14.7	39 52.0	13 17.3	19 25.3	23 30.7	24 32.0	-	2 2.7	12 16.0

図表 151 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと
(被害経験別『なぐったり、けったりなどの身体に対する暴行』)

○被害経験別の傾向

なぐったり、けったりなどの身体に対する暴行に関する被害経験別にみると、暴行を受けた経験が「何度もあった」という人は、「1、2度あった」「まったくない」という人に比べて「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」が多くなっています。一方、暴行を受けた経験が「まったくない」という人は、「何どもあった」「1、2度あった」という人に比べて「加害者への罰則を強化する」という回答が多くなっています。